

*The 60th
Anniversary*



KANSAI UNIVERSITY FENCING CLUB

関西大学体育会フェンシング部
60周年記念誌

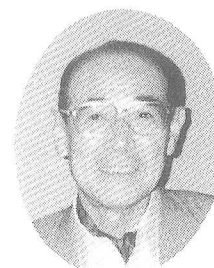


関西大学体育会フェンシング部OB会

目 次

◇記念誌発刊にあたって (OB会長 酒田清光).....	1
◇創部60周年を寿ぐ (部長 豊永 彰).....	2
◇還暦を迎えて (創設者 山口 吉雄).....	3
◇60年の栄光 (前部長 廣岡 英雄).....	4
◇60周年を迎えるにあたり (監督 仲井 修).....	5
◇歴代役員.....	6
◇60年の歩み.....	8
◇部章の変遷.....	12
◇戦いの足跡.....	13
◇合宿地の変遷.....	20
◇下級生エレジー.....	22
◇思い出の写真集.....	23
◇50周年記念式典.....	43
◇戦後卒業騎士のプロフィール.....	44
◇会報集 (ダガー・ひょうたん・なまず).....	67
◇学歌・逍遙歌・応援歌・学生歌.....	68
◇編集後記.....	69
◇会員名簿・OB会規約 (別冊)	

記念誌の発刊にあたって



OB会長 酒田 清光 (昭和28年卒業)

このたび関西大学フェンシング部は創部60周年を迎えることになりました。誠に慶ばしい限りであります。この記念すべき年を一つの区切りとして、60年の部史を回顧し、その足跡を集成し次世代へ継承することが我々の責務であると考え、本記念誌を発刊いたしました。顧みますと、昭和12年創部、昭和23年戦後の復部は、フェンシング競技草創期の快挙であり、当時の諸先輩の情熱とご苦勞によって関西大学フェンシング部の確固たる基礎が創られました。以来、時を経て、全日本学生の制覇、関西学生リーグ8連覇等 数々の偉業を達成し、輝かしい歴史と伝統を築いて参りました。

しかし、学園紛争を契機とする学校並びに社会情勢の変化に伴い部の活動は低迷を続け、現在は学生リーグ2部に止まる不振の状態にあることは誠に残念なことでありますが、60年の歩みの中で部の活動を支え励まし、共に剣を交えた友、先輩諸兄の功績は大きく、また、それぞれの時代における役割、戦績を省みることも軽重の差はなく忘却することは出来ません。

この部史発刊を契機として、先輩の築かれた輝かしい歴史と伝統のもと、強い関大フェンシングの復活を期し、錬磨、精進されんことを乞い願うものであります。

いつの日か、百年誌が発刊され、二百年、三百年と部の歴史は続くことでしょう。本誌が初めての部史として永く語り継がれることを祈ってやみません。

終わりに、我が部60年の歩みと共に、長い間現場にて剣をもって我々を育成、ご指導いただいた山口先輩のご尽力に深く敬意を表しますと共に、故櫻田先生及び廣岡、豊永両部長先生並びに先輩諸兄のご支援に厚く感謝申し上げます。今後とも、部の隆盛にご援助、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

創部60周年を寿ぐ



部長 豊 永 彰

わが関西大学フェンシング部が呱呱の声をあげて以来、今年で60年になります。

わが国では、それほどポピュラーでないスポーツの大学クラブを営々と60年維持することは決して容易なことではありません。そのことは、時代の波に流されて消えていった幾つかのクラブを思いおこせばすぐに理解できるでしょう。

第2次世界大戦後の危機的状況を克服し、今日まで火を燃やし続けてこられた歴代の部員、コーチ、監督、ならびに櫻田・廣岡両先代部長先生の熱意とご努力に対して満腔の敬意を表する次第であります。とりわけ、わが部の中心的存在として渾身の努力を傾けてこられた山口先生のご盡力は、筆舌につくし難いほど大きいものであります。

昔風に喩えますと、60年は還暦の年であります。干支が一巡して元に戻ることであります。フェンシング部も最初の大きな1ラウンドを終り、新しい次のラウンドに入ることになります。第一ラウンドでは一度ならず全国制覇を遂げるという偉業を達成し、江湖にその存在を知らしめたのですが、その後の偏差値教育の結果として今日では関係者・現役の奮斗にもかかわらず、いわば構造的な不振を余儀なくされていると言えるでしょう。

栄枯盛衰・時代による消長は避け難いものではありません。しかし、幸いなことに、スポーツ推薦・一芸入試など、これまでの学力偏重の入試制度から、多様な人材を求める方向が打ち出されてきました。現在のところ、まだ十分なものとは言えませんが、確実に潮の流れは変わりつつあります。新しい展望が開けてきたのです。

第一ラウンド終了のゴングが鳴り響き、第二ラウンドを迎えるに当って、私達は先輩の偉業を胸に秘め、新しい栄光の歴史に向けて力強く踏み出そうではありませんか。

そのためには常に自戒を怠らず、心・技・体の錬磨に励まなければなりません。歪んだ心に正しく爽やかな技は生れてきません。この記念すべき時を、新しい決意と反省をこめて、皆さんと共に寿ぎたいと思います。

還暦を迎えて



創設者 山 口 吉 雄 (昭和16年卒業)

我がフェンシング部が本年度で還暦を迎え月日の経つ早さに驚くと共に、過ぎ去りし日々を振り返り見ますとき、フェンシングと共に過ごした60年間の思い出されます。

私の小学生時代に見た洋画の中の合理的な技術と思想に引かれ、自分も何時の日にか剣を振ってみたい思いでしたが、当時はフェンシングを知る人もない昭和の初めでした。中学を卒業し関大の予科に入学した昭和11年の夏に、大阪YMCAで講習会が開かれると言う記事に喜び勇んで参加したところ、幸いにも天中の大先輩に当たる的場氏の指導を受けることができ、加うるに関大の先輩の田中龍一郎、予科の八尾比古夫と共にune-deux attaque, battement, contre-attaque, riposte, (quart, six)、これらが技の総てでありましたが習得に努めました。この時以来、私の洋書との独習が今日まで続きました。

さて、昭和12年の秋に田中先輩の勧誘で八尾氏と共に当部創設に参加いたしました。以来、昭和16年大東亜戦争勃発まで、今の第2学舎1号館(経商学部)の休憩所では昼、月水金の夜はYMCAでの練習が続きました。

4年間の空白を残して昭和20年の終戦と共に復員、思いで多き古巣YMCAで練習を再開し、23年就職に力を得て、石脇潤一、大森邦久、両君の協力を得て、戦後の関大フェンシング部の再生を図り、歴代の部員を指導して参りました。

今日、共々に60周年祝賀会に参列出来ましたことは私の無上の光栄であり、これ一重に歴代の部長の先生方を始めとし共に戦った明治、法政、専修等 各大学の諸兄の協力の賜と御礼申し上げますと共に、当部の一層の発展に盡力下されんことを希う次第であります。

60年の栄光



前部長 廣岡 英雄 (昭和33年～48年)

フェンシング部創設60周年、ご同慶の至りであります。

私と部とのえにしは、法科の櫻田 譽教授(故人)が在外研究員として渡英された時、その留守を委任されたことによって生じました。それが私のフェンシング部長の始まりであります。

私がかねがね、フェンシングをスポーツと呼ぶべきかどうかを迷っておりました。それは、剣を以て敵に当たる術であるからです。フェンシングという語はDefense (防御)に由来していることは皆さん御存じのとおりです。中世は騎士の武術として、その後は紳士のたしなみの一つとして重んじられてきています。そのため礼儀作法が尊ばれます。総監督 山口吉雄先生が、この点を厳しく躰られたのを覚えておられるでしょう。「心正しからずば、剣また正しからず。」というのは、素直な心の持ち主でないと、いくら指導を受けても身につかないからなのです。

また、先輩諸氏が後輩を指導され、面倒を見られるのには涙ぐましいものがありました。まさに「一家族」であります。先輩諸兄の青春はこの洋剣一筋にあったのです。

現役諸君はよい部に入られました。関大の名誉にかけて、研鑽を積んで下さい。

今は豊永部長のもとに、フェンシング部の新しい日が始まっているのです。

60周年を迎えるにあたり



監督 仲井 修 (昭和46年卒)

栄誉ある歴史の節目にあたり、監督として一言申し上げる機会に恵まれましたことは、私自身にとりましても誠に光栄に存ずる次第であります。

関西大学創立百有余年の歴史の中にあり、我がフェンシング部も今年で創部60周年を迎えることが出来ました。創部以来我が部は、常に関西の雄として君臨して参りました。しかしながら、スポーツ推薦入試の廃止に加えて関西大学第一高等学校からの経験者の減少等が原因となって、現在は関西リーグ2部の位置に低迷し20数年が過ぎようとしております。

一部復帰を目指し、コーチ陣の強化はもとより、外部コーチの招聘、または他大学への強化合宿の参加と、今までになかった試みも行い、体力・技術力の強化に日々練習を重ねて参りました。その成果が昨年あたりから徐々に芽生えてきたように思います。

創部60周年を迎えた今年こそ、我が部の更なる飛躍に向けて、今まで以上に努力して参りたいと存じますので、どうか我が部の益々の発展のためにも、OBの皆様方の一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

また、現在までご尽力とご協力を賜りました諸先輩方々に厚く御礼申し上げます。